

保護者様

北九州市立曾根中学校
校長 井上 勝美

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、国及び市教育委員会からの情報提供（10月）受け、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

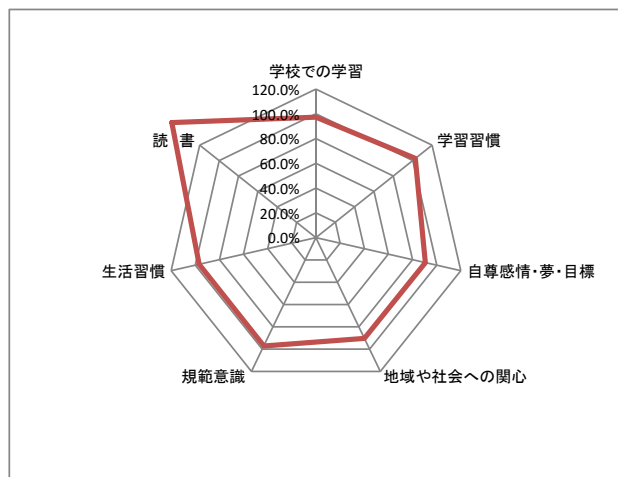
つきましては、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。本校では、今後も他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を上回っていた。特に、話す・聞くことの領域や、記述式の読むことに関する領域の問題の正答率が高かった。全教科で、話し合いや、交流する活動を取り入れた授業の工夫の効果が感じられた。 書くことの領域については、全国平均を下回った。 	上回っている
数学	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を上回っていた。数と式、図形、資料の活用の領域に関しての問題の正答率が高かった。数学的な技能、見方や考え方の力が向上した。 関数の領域については、全国平均を下回った。数量についての知識・理解の問題に課題が見られ、今後の指導を必要としている。 	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習については、計画的に勉強していると答えた割合は全国平均を上回っていた。しかし、1日あたりの勉強時間に関しては、平日・土日ともに全国平均を下回った。 学校での学習については、授業で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたり発表したりすることはよくできていたが、分らなかった点を見直し、次の学習へ生かすことができていないことが課題である。 心の育ちについては、「いじめはどんなときでもいけない。」という規範意識は高かった。しかし、「自分にはよいところがあると思いますか。」という自尊感情についての問いは、肯定的な回答の割合が全国平均を下回った。 1日当たりの読書時間は、全国平均を大きく上回っており、日ごろから本に親しむ生徒が多いということが結果に出ている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 授業の中で、自分の考えを書いたり発表したりする場面を設定する。また、ICT機器を効果的に活用した授業の工夫と実践を今後も継続する。また、一人一人の生徒が、学習の中で、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習へつなげられるような教材や学習環境を設定する。
- 国語科では、言葉の力の向上を目指すとともに、作文指導等を通して、書く力の定着を図る。
- 数学科では、数量についての基礎的・基本的内容の定着に向けて、ミニテストやコンクール等を実施する。
- 全教科で、考查問題を工夫し、思考力等を問う問題を計画的に取り入れることで、思考力等の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習用自学ノートの内容や活用の仕方の見直しを行い、効果的な家庭学習習慣の定着を図る。
- いじめの問題については、広報活動や規範教室などを通して、継続して、保護者への啓発活動に取り組む。
- スマートフォンの使い方については、小中で連携してポスター掲示等で啓発する。
- 学校行事や教育相談・進路学習等を通じて、自分のよさや得意な分野に気づくことができる場面を設定する。
- 春・秋・冬の読書週間を継続し、本を読む時間を確保することで、読書への興味をさらに高める。